

連休明けの5月9日、昼過ぎに仙台駅に到着。駅構内やその周辺は、人の通日も多く、何度か訪れた仙台駅とは変わらない。タクシーに分乗して市内の集合場所へ。 途中の車窓からみる景色も変



わりはない。空は晴れており、遠くに望む雪に覆われた蔵王の山々が美しい。集合場所に到着後直ちに、支援プロジェクト参加者共々、明日から入る現場の視察に出発。 マイクロバスで、海の方に向かう。 周りの景色が次第に変化し始める。 到着したのは通称 A ヤード。4月11日から作業を開始した先行グループが撤去・移動した車両約700台の仮置き場である。 平積みさ

れているのは、まだ見たところ車両の体をなしている被災車両であるが、その周りに段積みとなっているのは、これが自動車かと疑われるような残骸。 中には、タイヤやステアリングがあるからきっと車だったのだろう、といったものもある。 この A ヤードは現場の前線基地という位置付けで、作業車両置き場を兼ねているため、期間中は A ヤードで朝礼を行い、それぞれの現場に



向かい、最後に、作業車両を置きに戻り一日の活動を終了する。

次に向かったのは、通称 B ヤード。二つ目の仮保管場所である。途中の景観は、正にテレビのニュースなどで見る被災地そのものである。震災発生から2カ月足らずが経過しているため、ある程度水も引いているが、もともと田畑とおぼしき原っぱに、瓦礫が散乱しており、その中に車も散見できる。道路に放置されていた車両は自衛隊

などの手により道路スペース確保のため路肩に寄せられており、我々の支援チームはそれらを撤去するのが現在の主たる仕事であるが、何れは、畑に半分埋まったような車両も引っ張り出さなければならないことになるであろう。



左の写真のような車も結構多く、足場の悪いこのような場所から車両を引きだすのは、かなりの機材や人手を要する作業になる。したがって残念ながら今回の作業の対象としていないが、何れは誰かがやらなければならないことであり、今後とも多くの人々の協力が不可欠であることは容易に想像できる。

B ヤードに到着。もともと海浜公園があった場所で、平坦な広場の先に

松林が望め、その先が海である。遠くにのぞむ防砂林の松の下枝がないのは、その高さまで波が押し寄せたからということ、少なく見ても7～8m はあろう。この一帯は、市が指定する瓦礫置き場で、各種の瓦礫が分別されて積まれている。自動車もその一つである。車の置き場は、廃油、廃液等の地中浸透を防ぐため、急遽アスファルト舗装が行われてい



た。

B ヤード周辺には、各種瓦礫の仮置き場が設置されており、仙台市内の各所から運ばれてくる瓦礫を分別し、物品毎に山積みされている。家電、金属類は破碎工程に移管されるものと思われる。家電、特に冷蔵庫、エアコンなどのフロン処理はどうなるのか気になるところ。建材を中心とする瓦礫置き場には、新品の大型破碎機（ガラパゴス）が設置され

れていた。木材系はその場で破碎してチップとして処理するものと思われる。おそらく一番大変なのは畳ではないだろうか。水を吸って大変な重さであり、搬送して焼却というのは至難の業と思われるし、これからの気温上昇によって腐敗して悪臭のもとになるとも思われることから、急遽最終処分する必要があるだろう。しかしながら、その方法は、と問われればなかなか回答は見つからない。

B ヤードのある地域、元の海浜公園に設置されて品目別の瓦礫仮置き場。



瓦礫



家電ごみ



金属



たたみ

事前合同会議

午後3時、現場視察を終えた一行は、市内の施設に集合。これより結団式とオリエンテーションが行われる。冒頭、震災で亡くなられた方々に対して黙祷を行ったが。団員一同、改めて今回のミッションの重要さに身の引き締まる思いをもったことであろう。引き続き、今回の支援活動を推進する災害車両処理対策本部を代表して、栗山本部長の代理である榎本 ELV 機構副代表理事が挨拶に立ち、今回の支援活動への参加に対する感謝の意を述べると共に、先発隊の働きに感謝するとともに、明日からの4日間は安全を第一と考えて全員無事に活動を終えるよう期待すると締めくくった。



その後、対策本部宮城担当の大橋岳彦氏（ELV 機構副代表理事）、現地本部長（土門五郎氏）等のご挨拶があり、各作業別リーダーの皆さんから、詳細かつ親切なオリエンテーションが行われた。



大橋岳彦氏 (ELV 機構宮城県担当)

土門五郎氏 (現地本部長)



各リーダーから、再三にわたり強調されてことは、今回の作業には極めて危険な部分も多くあるため、作業のスピードを競うようなことはなく、安全の確保に配慮して行ってほしい、ということであった。また、先発チームの中で、終了後感染症（肺炎）を発症した方が2名もおられたことなどから、マスク、メガネの着用、ヘルメット、革製軍手の着用など安全・衛生面にも十分の配慮をしてほしいことが強調された。

なお、作業部隊 の編成は以下のとおりとなる旨の説明があった。

① 事前調査部隊

市職員ともども、対象車両に管理番号貼付、移動の告知文の貼付、デジカメ写真の撮影を行う

② 引き上げ部隊

2人一組で、ユニック操作、玉かけ、車両運転を行い、引き上げ車両をヤードへ搬送する

③ 保管ヤード部隊

車輛の積み降ろし（主にフォーク）、電池端子（－）の取り外し、車台番号確認、写真撮影、放射能測定、チェックシート記入などを行う

5月10日（火）08：45 Aヤード集合 作業開始

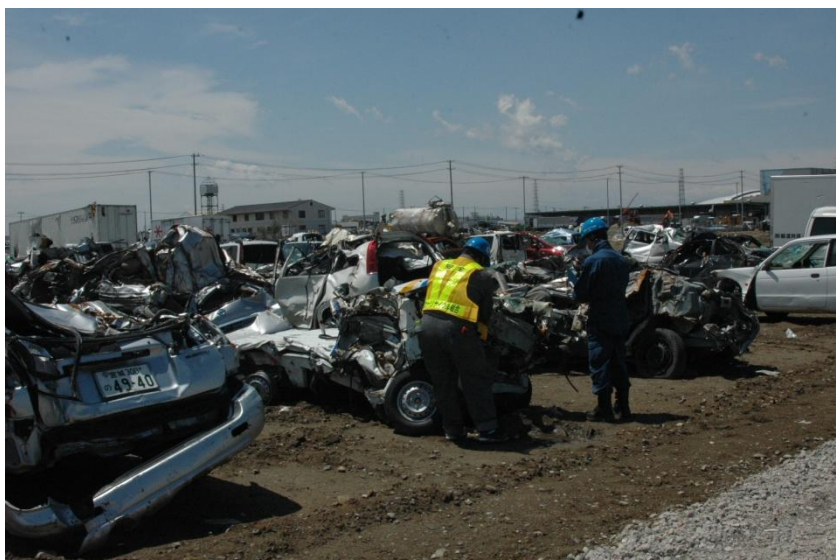
昨夜来の雨も上がり、青空ののぞく支援作業には最適の日となる。一行の宿舎がある市内郊外の秋保温泉から集合地へ移動を開始したのが朝7時。普段であれば仙台の奥座敷ともいべき秋保温泉ではあるが、多くのホテルは、被災支援者用の特別格安パックを用意して、集客を行っており。市内に向かうバスの前後には、警視庁と岐阜県警のパトカーが何台か連なっており、警察関係者も昨夜は秋保温泉泊まりだったことが伺える。

集合場所の A ヤードに一行が集まったのが9時前。まずは全体写真撮影を行った後、朝礼に引き続き、作業の組み分け、作業箇所の確認並びに諸注意事項が各担当より述べられ、事前調査チームに

参加する仙台市関係者も到着し、いよいよ各チーム現場に向かう。

各作業車両、おもにユニック付きのトラック、の前面には黄色に黒と赤で染め抜いた「がんばろうニッポン！ー災害支援車両ー日本ELV リサイクル機構」の文字が目映える。

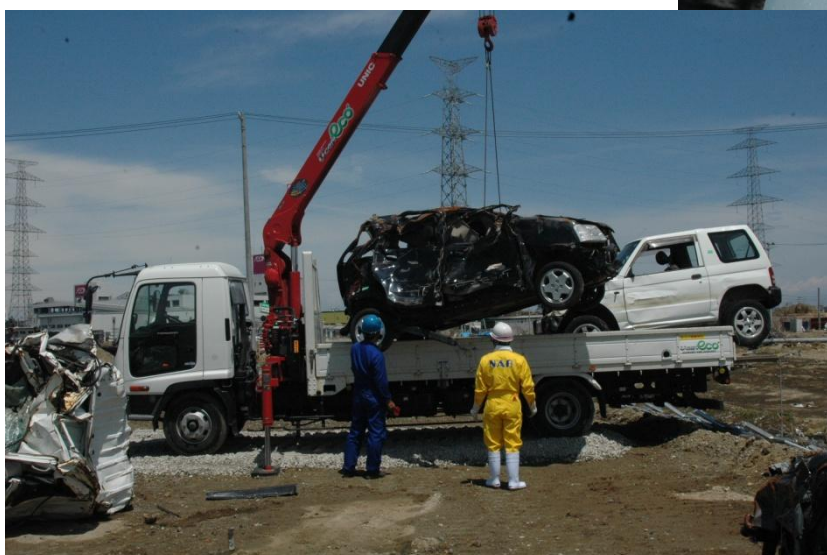




事前調査

市の管理する個所の車両に、予め移動の予告と管理番号貼付を行うと共に写真を撮影しチェックシートを作成する

異動の予告ラベル



予め移動の予告をした車両の撤去作業

ユニックで釣り上げトラックに積み込む。多くの車両に土砂等が混入しているため、重量は通常の1.5~2倍検討になるため、一回に積めるのは小型乗用車で二台積が限度。



左は車輛積み込み状況

写真の作業車で活躍するのは親子ペアで、作業の手際の良さはチーム随一

